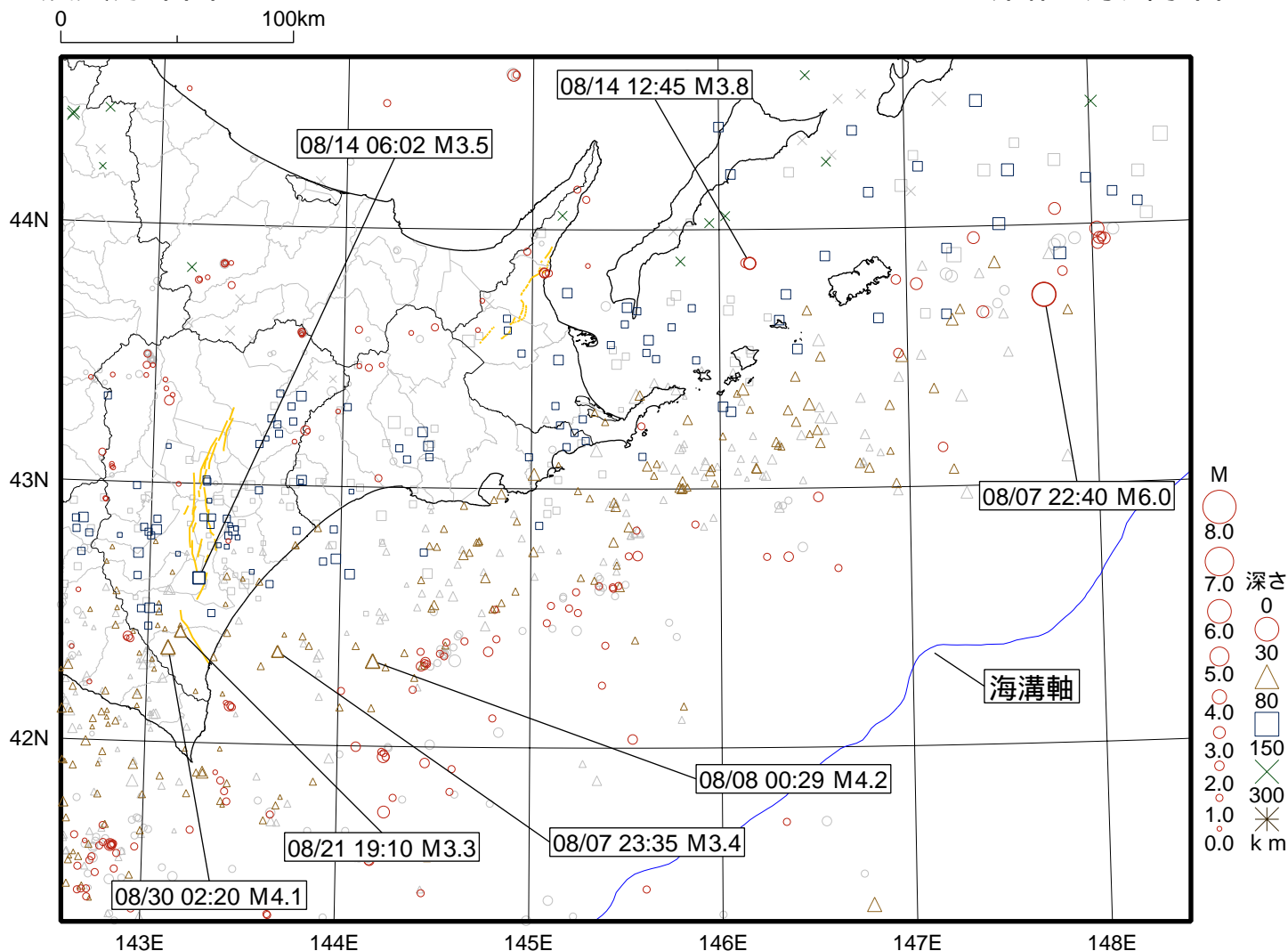


釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2022年8月1日～2022年8月31日

震央分布図

釧路地方気象台



地震概況（2022年8月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は8回（7月は9回）で主な地震は次のとおりです（詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照）。

7日22時40分、北海道東方沖の地震（M6.0、ごく浅い）により、浜中町、標茶町、根室市、中標津町、標津町、羅臼町、別海町で震度3を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度2～1を観測しました。

8日00時29分、十勝沖の地震（M4.2、深さ57km）により、標茶町、白糠町、幕別町、池田町、浦幌町で震度2を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度1を観測しました。

30日02時20分、十勝地方南部の地震（M4.1、深さ51km）により、浦幌町、広尾町で震度2を観測したほか、白糠町、幕別町、更別村、大樹町で震度1を観測しました。

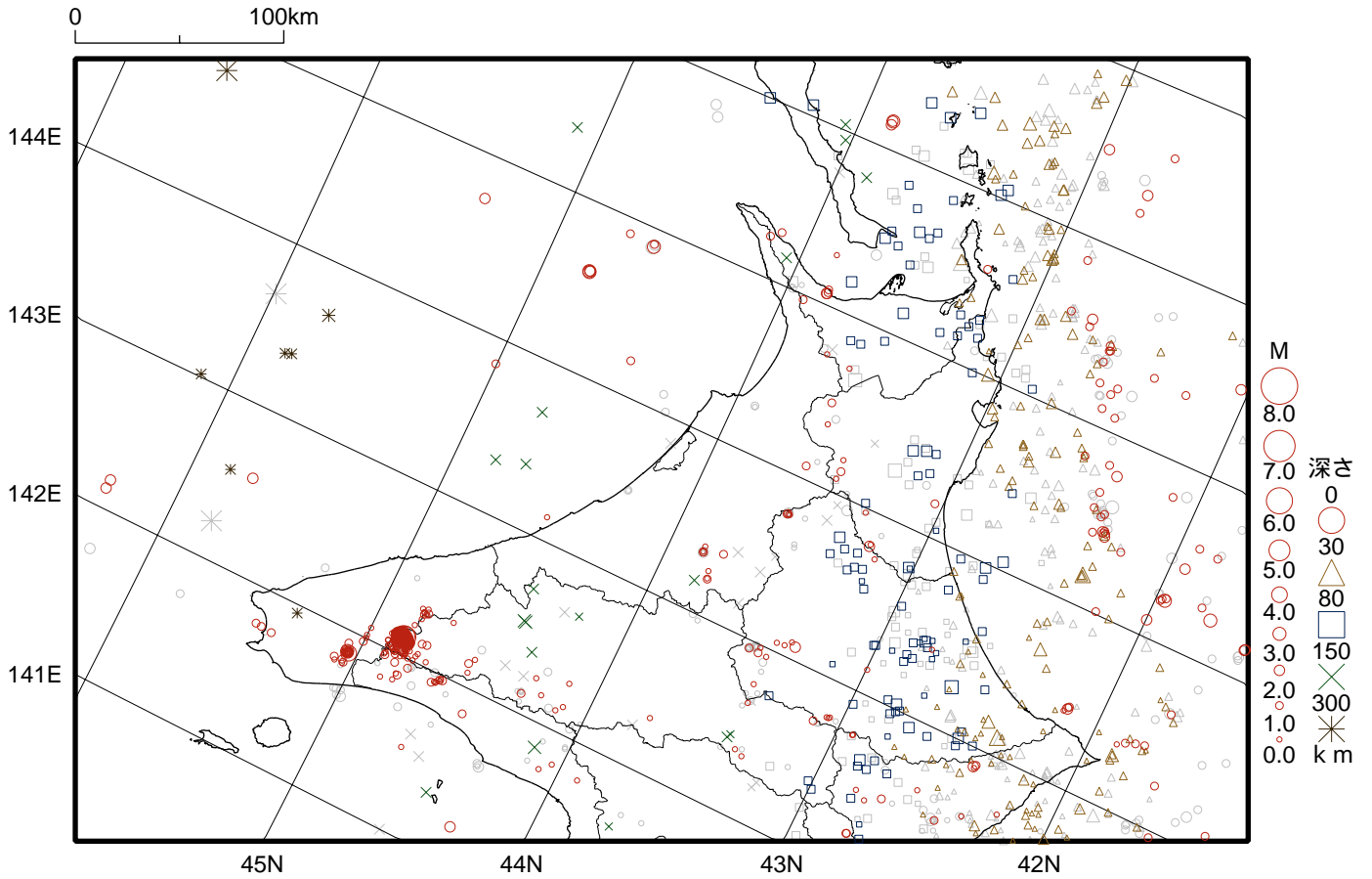
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html

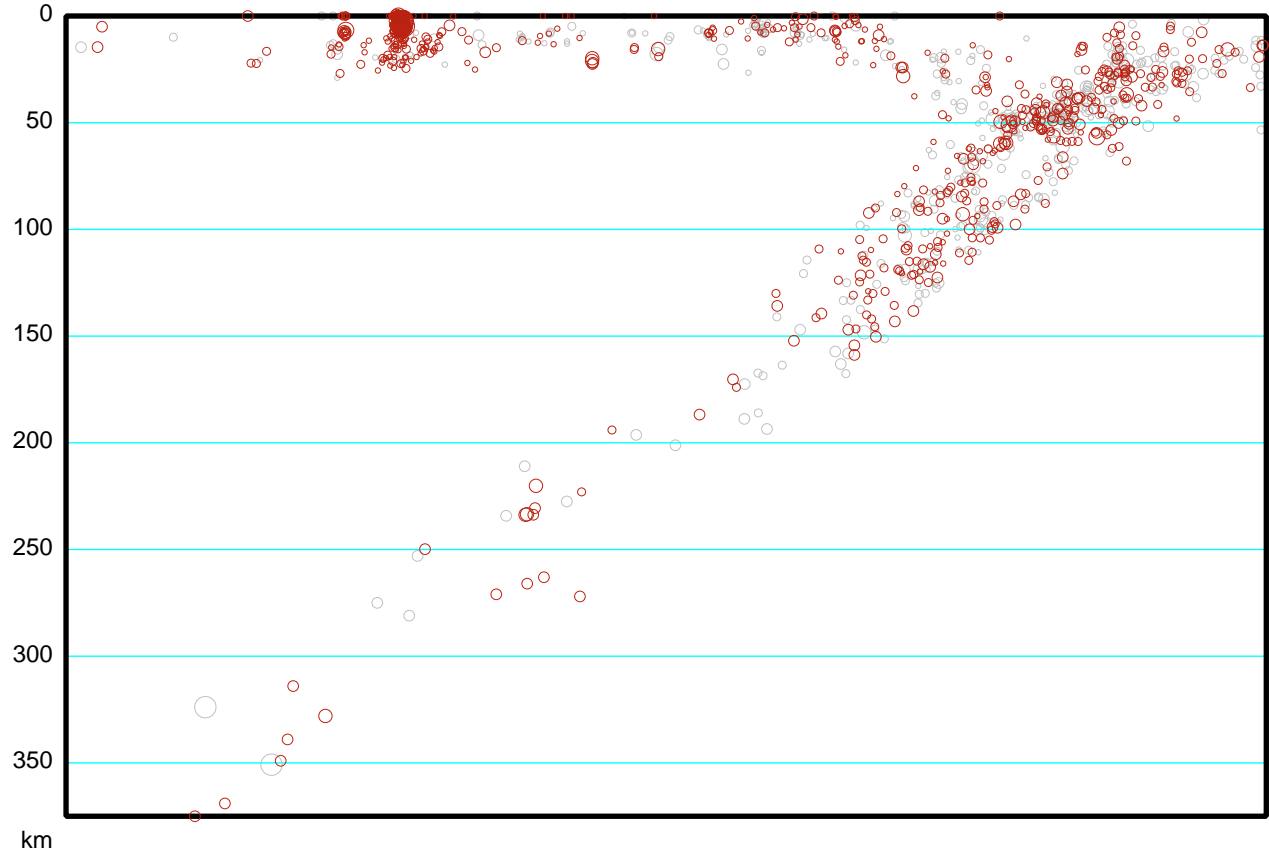
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2022年8月1日 ~ 2022年8月31日

震央分布図



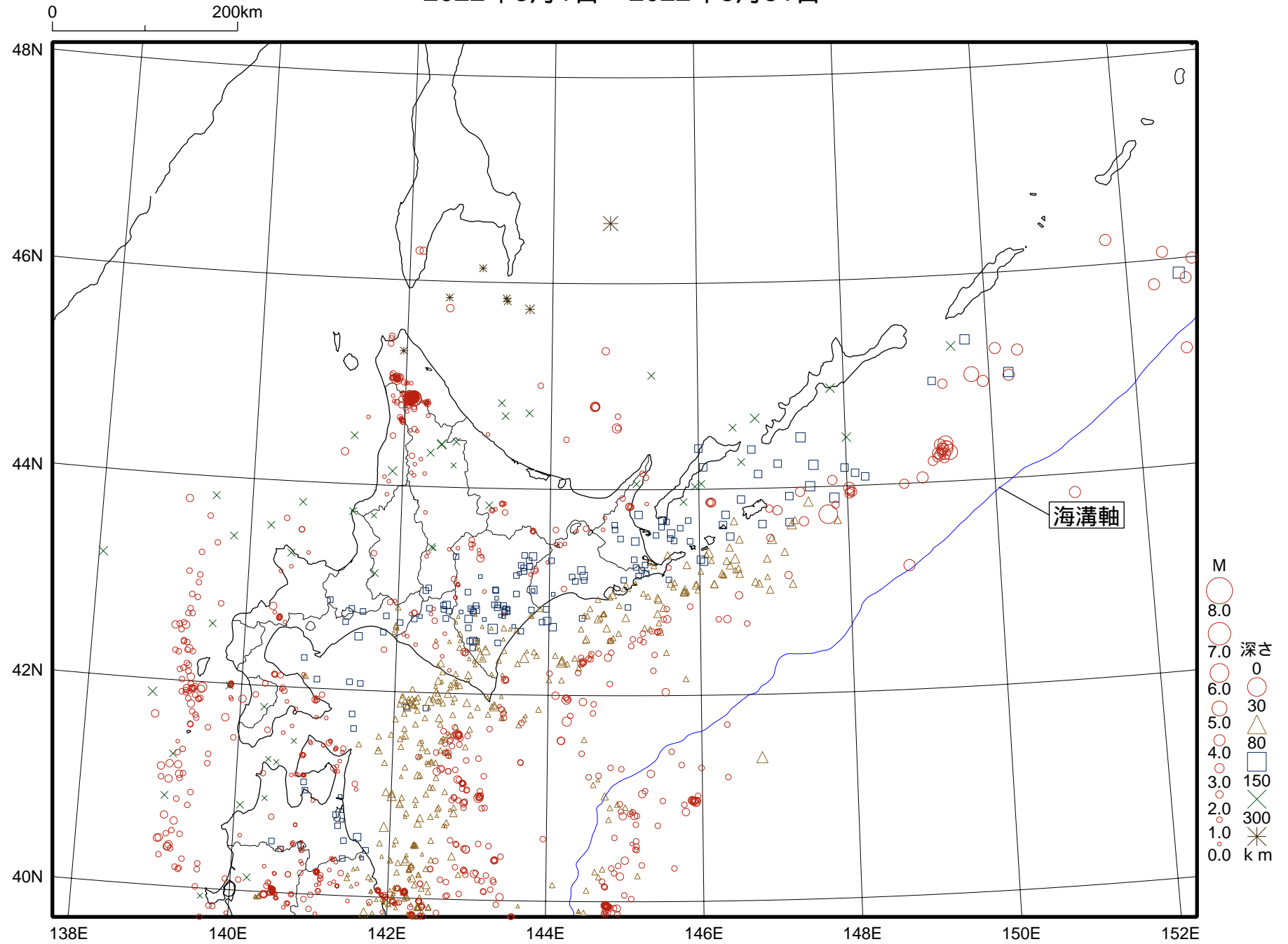
断面図



北海道の地震活動図

2022年8月1日 ~ 2022年8月31日

震央分布図



釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表(2022年8月)

年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2022年 8月 7日 釧路地方	22時40分 震度3 震度2	北海道東方沖 浜中町茶内*(28) 標茶町塘路*(27) 弟子屈町弟子屈*(19) 釧路市幸町(18) 釧路市黒金町*(22) 釧路市阿寒町中央*(22) 釧路市音別町中園*(20) 釧路町別保*(19) 厚岸町尾幌(16) 厚岸町真栄*(17) 浜中町湯沸(19) 標茶町川上*(18) 鶴居村鶴居東*(21) 白糠町西1条*(21) 震度1 弟子屈町美里(14) 弟子屈町サウンチサップ*(14) 釧路市音別町尺別(09) 釧路市阿寒町阿寒湖温泉*(13)	43°43.8 N	147°44.0 E	0 km	M6.0
根室地方	震度3 震度2	中標津町丸山*(27) 標津町北2条*(27) 羅臼町岬町*(26) 別海町常盤(27) 別海町西春別*(26) 別海町本別海*(27) 根室市厚床*(25) 根室市落石東*(31) 根室市瑤瑠*(31) 中標津町養老牛(15) 羅臼町緑町*(21) 根室市弥栄(21) 根室市豊里(18) 根室市牧の内*(24)				
十勝地方	震度1 震度2 震度1	標津町古多糠(13) 標津町薫別*(14) 羅臼町春日(12) 新得町2条*(17) 足寄町南1条*(15) 幕別町本町*(16) 十勝池田町西1条*(19) 本別町北2丁目(15) 本別町向陽町*(16) 浦幌町桜町*(23) 十勝大樹町生花*(23) 鹿追町東町*(11) 足寄町上螺湾(13) 帯広市東4条(10) 帯広市東6条*(10) 音更町元町*(11) 土幌町土幌*(08) 十勝清水町南4条(14) 芽室町東2条*(13) 幕別町忠類明和(07) 幕別町忠類錦町*(14) 豊頃町茂岩本町*(13) 中札内村東2条*(07) 更別村更別*(11) 十勝大樹町東本通*(14) 広尾町並木通(12) 広尾町白樺通(09)				
2022年 8月 7日 十勝地方	23時35分 震度1	十勝沖 十勝大樹町生花*(05)	42°21.5 N	143°40.7 E	56 km	M3.4
2022年 8月 8日 十勝地方	00時29分 震度2 震度1	十勝沖 幕別町本町*(16) 十勝池田町西1条*(17) 浦幌町桜町*(15) 新得町2条*(08) 帯広市東4条(05) 音更町元町*(10) 豊頃町茂岩本町*(12) 本別町北2丁目(06) 本別町向陽町*(08) 十勝大樹町生花*(13)	42°19.7 N	144°10.6 E	57 km	M4.2
釧路地方	震度2 震度1	標茶町塘路*(15) 白糠町西1条*(15) 弟子屈町弟子屈*(07) 釧路市幸町(09) 釧路市阿寒町中央*(13) 釧路市音別町中園*(11) 釧路町別保*(10) 厚岸町尾幌(07)				
根室地方	震度1	標津町北2条*(06) 根室市厚床*(06)				
2022年 8月14日 十勝地方 根室地方	04時25分 震度1 震度1	オホーツク海南部 十勝大樹町生花*(07) 根室市厚床*(09)	46°35.0 N	144°48.0 E	414 km	M5.5
2022年 8月14日 十勝地方	06時02分 震度1	十勝地方南部 幕別町忠類錦町*(05) 本別町向陽町*(05) 浦幌町桜町*(11) 十勝大樹町生花*(05)	42°38.1 N	143°15.5 E	93 km	M3.5
2022年 8月14日 根室地方	12時45分 震度1	国後島付近 根室市落石東*(06)	43°52.1 N	146°09.8 E	28 km	M3.8
2022年 8月21日 十勝地方	19時10分 震度1	十勝地方南部 浦幌町桜町*(12)	42°25.6 N	143°10.1 E	50 km	M3.3
2022年 8月30日 十勝地方	02時20分 震度2 震度1	十勝地方南部 浦幌町桜町*(15) 広尾町並木通(16) 幕別町忠類錦町*(13) 更別村更別*(13) 十勝大樹町東本通*(12) 十勝大樹町生花*(10) 広尾町白樺通(13)	42°21.9 N	143°06.4 E	51 km	M4.1
釧路地方	震度1	白糠町西1条*(07)				

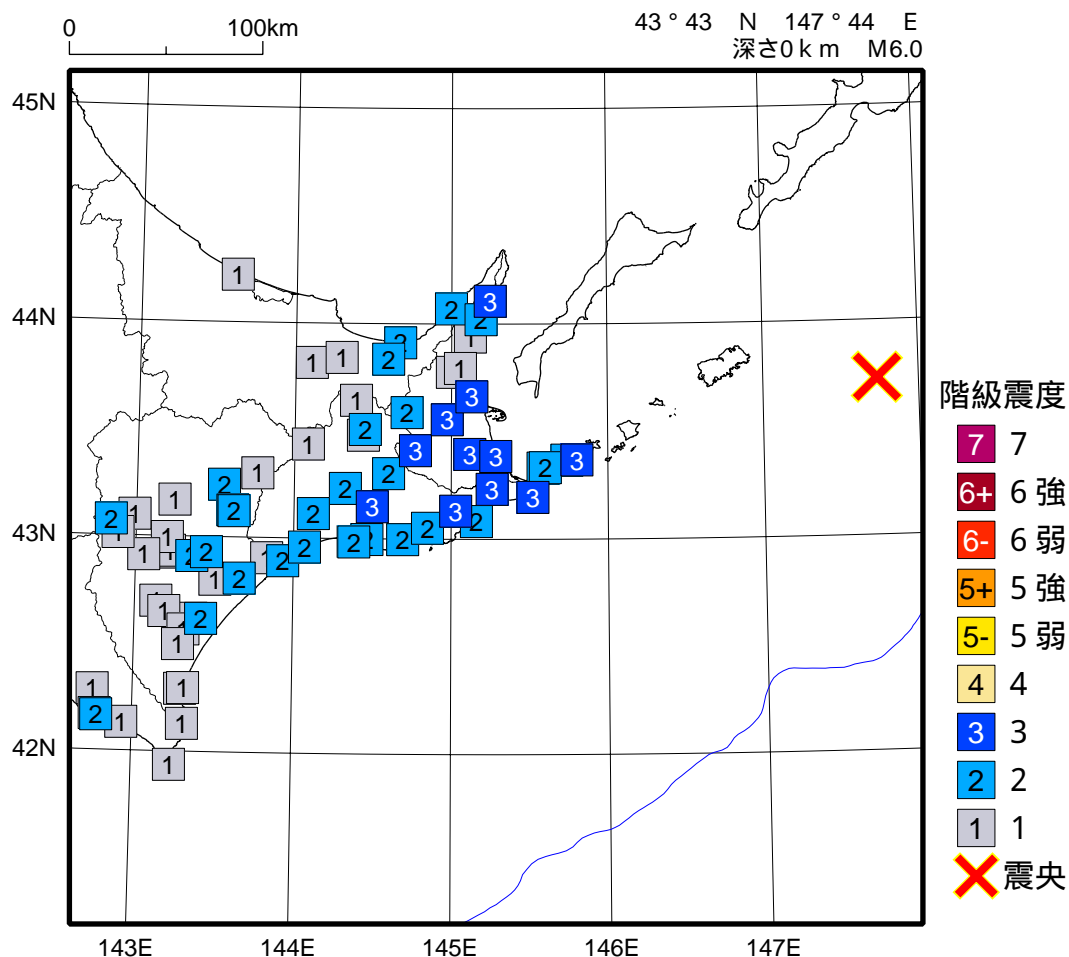
*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

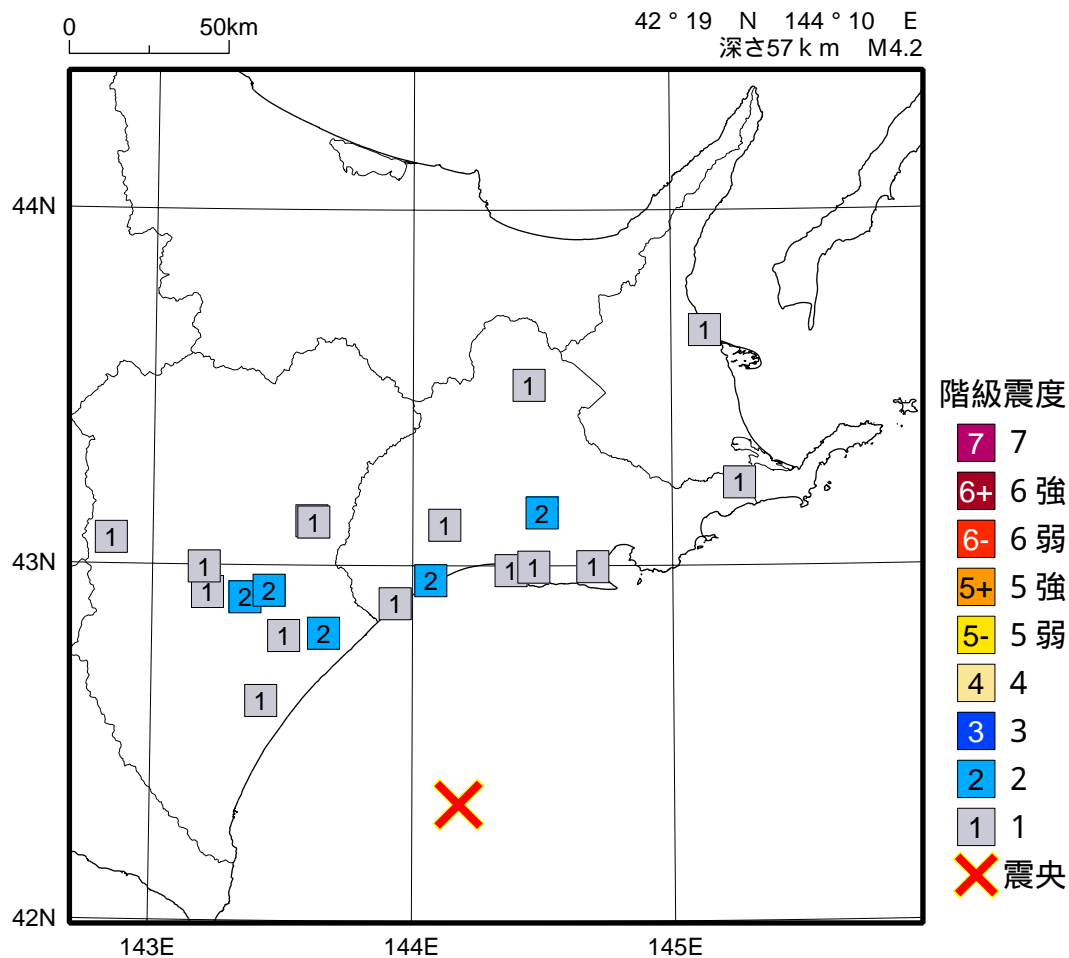
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

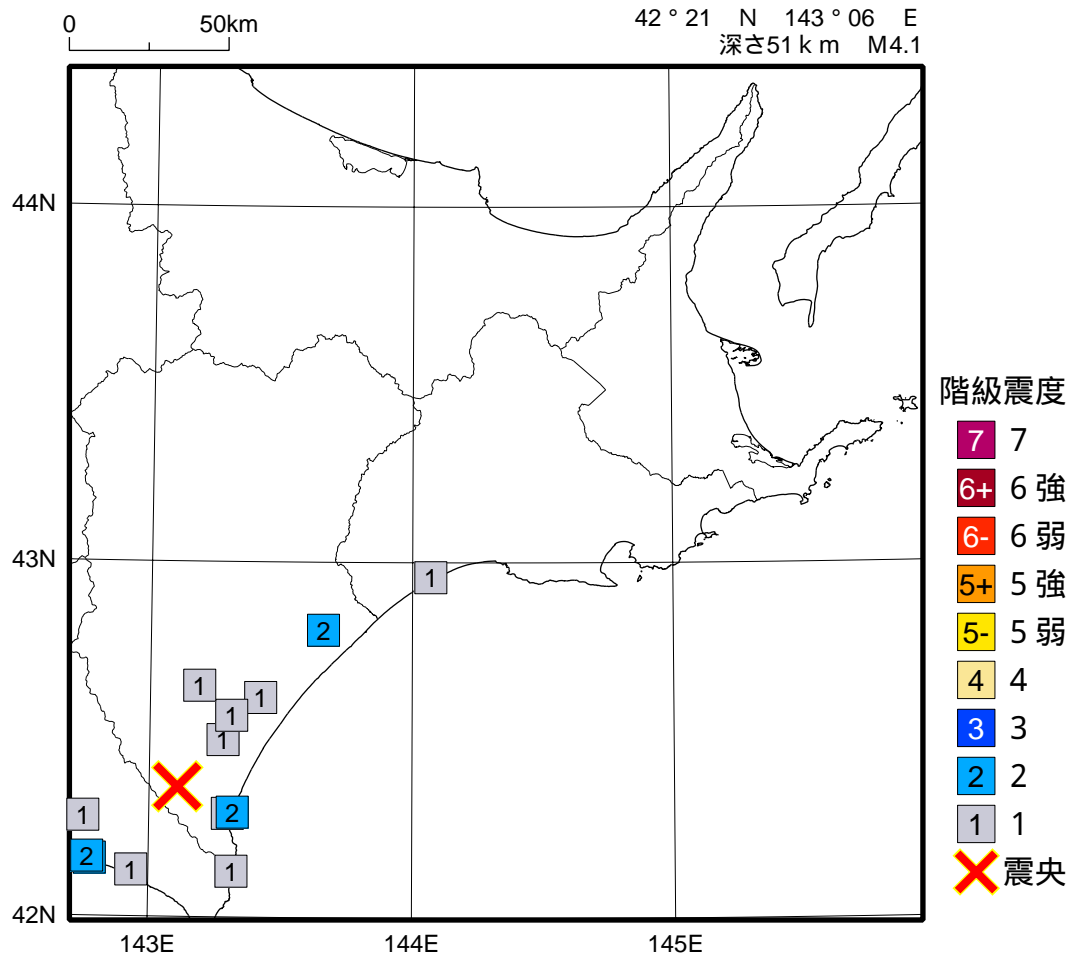
2022年 8月 7日22時40分 北海道東方沖の地震の震度分布図



2022年 8月 8日00時29分 十勝沖の地震の震度分布図



2022年 8月30日02時20分 十勝地方南部の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 2022年8月1日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

【防災メモ】

～遠地地震・遠地津波について～

●遠地地震に関する情報

国外で発生した地震を「遠地地震」といい、この遠地地震に伴う津波を「遠地津波」と呼んでいます。

気象庁では、国外でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合や、著しい被害が発生した可能性のある地震を認知した場合などに、地震の発生から30分程度をめどに「遠地地震に関する情報」として、地震の発生時刻、発生場所（震源）およびその規模（マグニチュード）、日本や国外への津波の影響や観測状況について発表しています（図1）。津波の影響や観測状況に関しては、新たなデータに基づいて、随時情報を更新します。



図1 遠地地震に関する情報の例（気象庁HP）

「遠地地震に関する情報」などの地震情報は、気象庁ホームページのトップページ上部にあるメニューから『防災情報』を選択後、『地震・津波』カテゴリーの中から『地震情報』を選択するとご覧になれます。操作方法は以下にも掲載しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/faq/pc.html#faq8>

●遠くからも伝わる津波

一般に津波は、その発生源（波源）から遠ざかると影響は小さくなりますが、非常に大きな津波の場合は、はるか遠くまで伝わって大きな被害をもたらすことがあります。また、遠くからやってくる津波は、途中の海底地形や陸地の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、津波が長時間継続するほか、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。さらに、近海で発生した津波と同様に、岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形では、波が集中して高くなるので特に注意が必要です。

●津波警報等の発表と避難行動

過去の代表的な事例として、1960年（昭和35年）の「チリ地震津波」では、北海道太平洋沿岸で4 mを超える津波の来襲により大きな被害が出ました（写真1）。このとき、津波の第1波は地震発生から約22時間半後に日本へ到達しています。到達後も津波は長時間続き、なかなか収まりませんでした。

気象庁は、遠地津波に対しても日本沿岸での高さを予想して、津波が到達する概ね2時間前までに津波警報等を発表します。津波警報等が発表された場合は、遠く離れた外国で発生した津波であっても決して油断せず、津波警報等が解除されるまで避難行動をとり続けてください。

遠地津波が到達するまでには地震発生からの時間的猶予があるため、各人が適切な避難行動をとれば必ず人的被害を抑えることができます。遠地地震・遠地津波に対して正しい知識を持ち、もしもの時に落ち着いて行動できるよう備えておきましょう。



写真1 1960年チリ地震津波による被害（浜中町榊町）
（気象庁職員撮影）

つなみ けいほう
ゆれを感じていなくても、津波警報を見たり聞いたりしたら急いでにげる

